

第4回 HIT カーボンニュートラル人材育成協議会会議 会議記録

日 時：令和6年10月31日(木) 14:30～16:40

場 所：八戸工業大学 2号館3階大会議室

出席者：34名（別紙詳細）

次 第：1. 開会

(1) 挨拶

HIT カーボンニュートラル人材育成協議会 会長
八戸工業大学 学長 坂本 禎智

(2) 構成員の追加について

2. 講演

演題「カーボンニュートラル 技術と社会、そして地域」

八戸工業高等専門学校 校長 土屋 範芳 氏

3. 議事

(1) 八戸市環境政策課の取り組みについて

八戸市 市民環境部 環境政策課 盛田 芽生 氏

(2) 八戸工業大学第一高等学校のカーボンニュートラル教育

八戸工業大学第一高等学校 柁谷 秀喜 氏

(3) 八戸工大における CN 講義の効果報告

八戸工業大学 工学部工学科 教授 信山 克義

(4) 質疑応答、意見交換

4. その他

(1) 次回協議会開催について

5. 閉会

会議記録

1. 開会

(1) 挨拶 HIT カーボンニュートラル人材育成協議会 会長 八戸工業大学 学長 坂本 禎智

本協議会の目的は、カーボンニュートラルに資する人材育成を通じ、若者の地元定着を図り、地域の労働力確保に繋がる活動を行うことである。高等教育機関との連携は重要であり、八戸高専に参画いただけることを嬉しく思う。また、小中高・一般向けWGが新たに発足し、関係機関と連携を深めている。今回の協議会でもさまざまな議論をし、活動を活発化させたい。

(2) 構成員の追加について

八戸工業高等専門学校に参画の内諾をいただいていることが報告された。

2. 講演

演題「カーボンニュートラル 技術と社会、そして地域」

国内外のエネルギー事情や、カーボンニュートラルを取り巻く近年の動向についてお話いただいた。

カーボンニュートラルの流れは今後さらに加速することが見込まれる。それらを地域に還元するには、エネルギーの地産地活が重要である。技術開発とビジネスが両輪となり社会をけん引していくのが、カーボンニュートラルの方向性だと考えている。

3. 議事

(1) 八戸市環境政策課の取組について

これまで取り組んできた内容の紹介があり、小中高・一般向け WG への参画を経てより取り組みを深化させる計画について発表があった。

(2) 八戸工業大学第一高等学校のカーボンニュートラル教育について

5教科と同様に、カーボンニュートラルや環境に関する知識を習得した CN ネイティブな生徒の育成を目標としている。八戸工大の講義を活用していること、地域の小中学生に CN 知識を伝達する学習会を計画していることなどについて発表があった。

(3) 八戸工大における CN 講義の効果報告

八戸工大におけるカーボンニュートラル講義における受講者数の推移や内訳など各種データの説明があった。また、高大接続教育やアンケート結果について発表があった。

(4) 質疑応答、意見交換

・八戸インテリジェントプラザ 松坂委員

八戸工業高校では、“チームマテリアル”として未利用熱エネルギーを活かす取り組みを行っている。市内の高校と大学が連携する教育プログラムがあっても良いのではないか。

・八戸工業大学 折田教授

八戸工業高校の取り組みについては把握している。自身の専門が未利用熱エネルギーであることから、同校に声をかけている状況である。連携に進捗があった際は報告する。

・NPO 法人 循環型社会創造ネットワーク 佐々木委員

青森県地球温暖化防止活動推進員（あおもりアースレンジャー）という取り組みがあり、青森南高校が参加している（サウスレンジャー）。高校にも募集を出しているそうなので、次の機会に活用していただくのも良いと思う。また、10年以上継続している環境出前講座を動画化し、来年一般向けに公開することになっている。

・青森県工業会 桃井委員

北東北3県交流会が秋田で開催され、洋上風力の現場や風と海の学校 あきたを見学してきた。後者は、洋上風力に関わる技術についての研修・教育プログラムを提供している。現在秋田県において、洋上風力は秋田沖13基、能代沖20基が稼働している。ヨーロッパや中国の技術者が関わっており、経済面で日本および地元に戻元されないことが課題である。青森県でも同様の取り組みを考える上で、地元企業の技術者育成が重要であり、それを支援できるシステムを検討していきたい。

・六ヶ所村産業協議会 千田委員

八戸工業大学の CN 教育を、一般参加が可能なプログラムにできないか。オンデマンド配信にして幅広く視聴できるようにし、ゆくゆくは履修証明プログラムに繋げるなど。小中高生に加え、社会人にも提供することを検討してほしい。（八戸工業大学 金子委員：講義の組み方次第では、履修証明プログラム化することも可能かもしれない。）

・量子科学技術研究開発機構 竹永委員

南極の二酸化炭素濃度は、位置的な環境が関係しているのか？また、人間が CO₂ を持ち込んでいることは影響するのか？（八戸高専 土屋氏：濃度について、統計上全球と一致はしていないがトレンドは見えている。また、人間が持ち込むことの影響はない。）

高校生向けワークショップを開催する中で、集客が難しいことがある。発表にあったアンケート結果を見ると、興味を持っている学生が多い一方、教員から勧められるのは少数に感じる。

・八戸工業大学 折田委員

学生には強く PR をしている。興味を持たせることが重要であり、CN がどういうものなのかを伝える作業をしている。協議会に参画している企業、団体それぞれが CN およびエネルギーに関する取り組みを行っている。ぜひ、小中高・一般向け WG にも参加いただき、情報共有や連携をしていきたい。

4. その他

(1) 次回協議会開催について

次回は 2025 年 3 月～4 月頃の開催を検討している。年度の変わり目で多忙な時期に案内をする可能性があるが、ご協力いただきたい。

5. 閉会